

街道の駅からの小さな旅

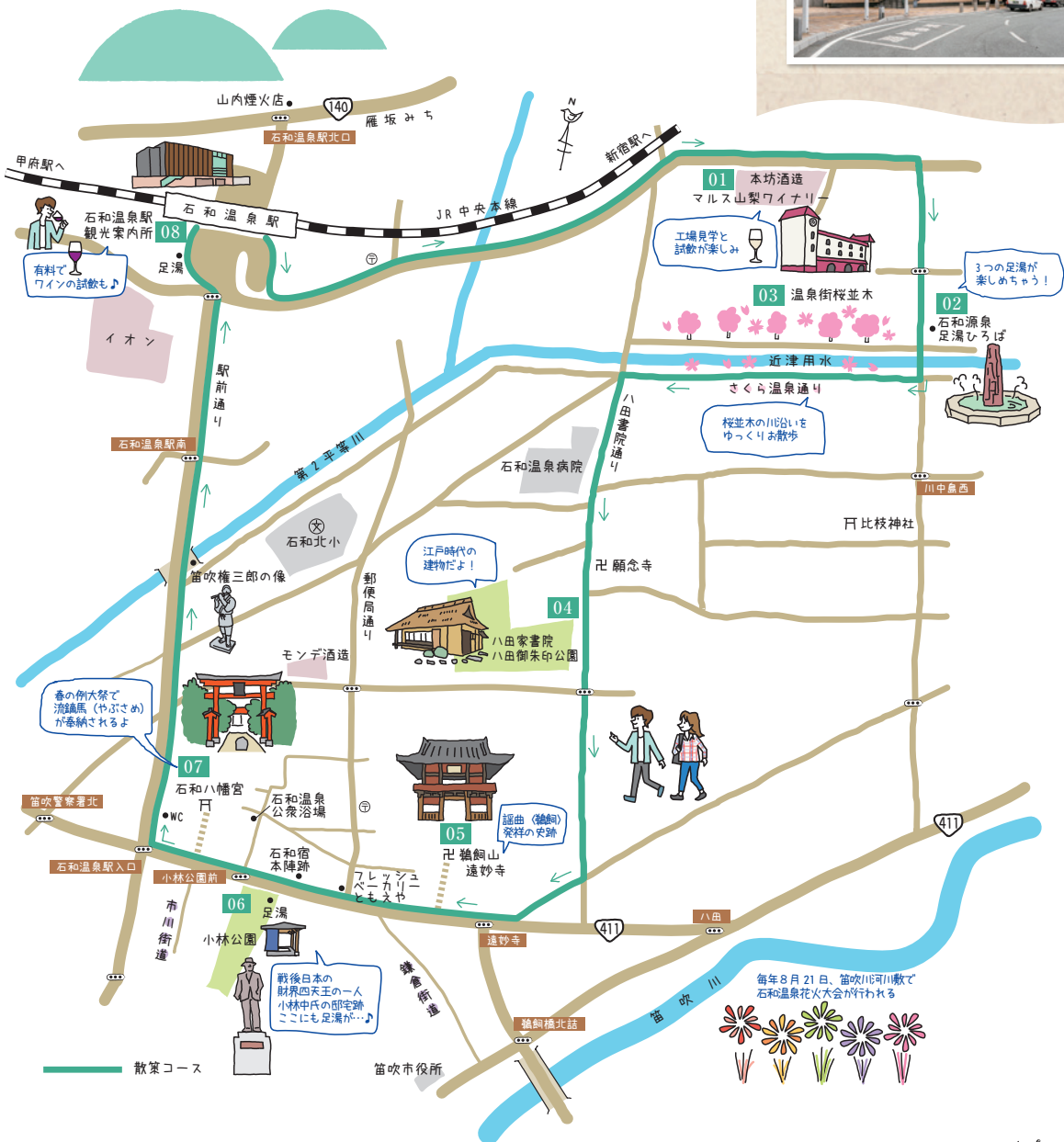
てくてくてくてくて

甲斐のくに

第15駅 石和温泉駅



温泉街の華やかさと、歴史が感じられる町並みが共存する
笛吹市石和町は、祭りやイベントで、
たくさんの花火が打ち上がることで知られています。
歴史が息づく湯の町の風情、
そしてワインも楽しみながら、石和温泉郷をてくてくと…。



01

マルス山梨
ワイナリー

ワインの歴史が学べる壁画がある地下貯蔵庫や、瓶詰めの様子などの工程が見学できる。樽から直接注いでワインの無料試飲ができるのもウイナリーならではの楽しみ。



02

石和源泉
足湯ひろば

3つの足湯と手湯を楽しめる、温泉街にある憩いの場。車いすのまま入れる足湯も完備されている。敷地内にはイベントを開催できるスペースもある。



03

温泉街の桜並木

近津用水沿いの桜並木は、温泉街の風情を感じながらの散歩にぴったり。開花期間はライトアップも行われる。涼やかな流れに水鳥たちが遊ぶ姿を見るのも癒やされる。



04

八田家書院

八田家は戦国時代に武田家の要職を務めた。かやぶき入り母屋造りの建築物は美しい庭園の中に静かにたたずみ、紅葉の時期は格別の風情がある。県指定文化財。



05

鵜飼山遠妙寺

石和の夏の風物詩鵜飼ゆかりの地。世阿弥の謡曲「鵜飼」発祥の史跡として知られる。石和唯の仁王門も貴重な建造物。



06

小林公園

日本開発銀行の初代総裁となった実業家・小林中氏の邸宅跡に整備された公園。足つばを刺激する石路みロードがある足湯でリフレッシュするのもしい。



07

石和八幡宮

景行天皇の時代に創始。武田家が宗家とする甲斐源氏より崇敬された歴史も有する。江戸時代奉納の絵馬11点は市指定文化財。例大祭では流鏝馬神事が奉納される。



08

石和温泉駅
観光案内所

石和温泉や周辺地域の宿泊や観光などの情報が得られる。案内所内にはワインサバーがあり、笛吹市内のワイナリーが造るワインの試飲が有料で楽しめる。



てくてく
歩きの
途中で...



笑顔で店頭立つパン店のお母さんに会いました。フレッシュベーカリーともえやさんには、一番人気のカレーパンなど自慢の逸品が並びます。「石和に温泉が湧いた昭和36年からお店をしています。店の前の道は花火大会のときに駅から会場に向かう人たちの通り道になり、とてもにぎわいますよ。夏には昔ながらのかき氷もお出していますから、石和の花火と一緒に楽しんでくださいね」と話してくれました。

夜空に描く一瞬のロマン

父子で追い求め続ける、いつまでも感動の余韻が心に残る花火

「花火の魅力は、桜の花のようにぱっと咲いてぱっと散る、一瞬のロマンにあると思います。私は日本独自の和火に魅力を感じ、現代風なアレンジを加えて昔より明るく、さらに美しくしようと考えました。そこで火薬の材料となる松の産地や調合にもこだわるなど研究を進めました。花火は化学的な要素が大きく、花火業者によって色、形、音も千差万別で各社の個性が出るものです。当社はアレンジをコーポレートカラーにしている、和火だけでなく洋火のアレンジも追求し、今では『山内オレンジ』と呼ばれるまでになりました(浩行さん)

「幼い頃から父親の背中を追いかけて、たくさんのお花火を見て来たので、家業を継ぐことは自然な流れでした。金属を使用する花火の色彩の研究はもちろん、安全第一とする花火業を営むための知識が必要不可欠だと感じ、大学では化学を専攻しました。さらに海外に留学し、高いレベルのコンピュータプログラミングや演出についても学びました。現在は県外の花火業者で勉強させてもらい、経験を積んでいます。いつの日か見る人たちの心に響く花火を作りたいです」(祐一さん)





毎年8月21日に笛吹川河川敷で開催される石和温泉花火大会。観客席と打ち上げ場所が近いため迫力のある花火が楽しめる



明治元年創業の山内煙火店。先祖は火術師として江戸時代の文献に名を残しており、甲府城の狼煙番の職務を担っていたという。山梨県第1号となる花火製造免許の交付を受けて以来、150年以上にわたり花火業者としてその技術と伝統を守り、同時に新たな挑戦を続けている。

株式会社 山内煙火店
代表取締役社長

山内 浩行^{さん}(右)・祐一^{さん}(左)

株式会社 山内煙火店
笛吹市石和町松本505 / TEL.055-262-2902